
初恋

新星爾咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Nコード】

N1401B

【作者名】

新星爾咲

【あらすじ】

恋なんてできないと思ってた。あの人にもう一度会うまでは。現在、過去、未来をまたぐ、少女の初恋。

第一話：17歳／再会の足音

「―ねえ、ミサの初恋っていつ？」

友達は尋ねる。急に話し掛けられた私は、はっとなりながらも、微かに甘く苦い記憶に身を任せる。

私の初恋はそう、あの頃かもしれない。

キンコンカンコン...

今日もまた、一日が始まる。いつもと変わらない、単調な一日。

女子校に入学してから、もう二年。受験生だというのに、まともに両思いという経験さえもせずに17年経ってしまった。嗚呼おそろしきかな、年令イコール彼氏いない歴。

高校に入学してからは、教師以外の異性とまともに会話もしない。そんな環境で生活していたから、特別親しいわけでもない友人が昨日の帰り道に尋ねたことばと、土曜日のイベントの間に不思議な運命を感じたのだった。

その日は一日中うわの空だった。帰り道、タカミが私に尋ねた。

「ミサ、土曜日何着てくか決めた？私一人で制服着るのやだからさ、一緒に着てこうよ」「そうだね、どうせ課外の後だし」

私はホッとした。自分のセンスに自身のなかった私は、私服を着たくなかったからだ。

「ああー、あの人も来るんだあ、どうしよう」

私はタカミのことばにドキ、とする。

「...あの人って？」

「あの人だよ、ほら、...S君」

...ああ、そっちか。何考えてるんだろ、私。

この勘違いを悟られないようにタカミを冷やかす。「なにい？タカミちゃん久しぶりにS君に会うからドキドキしてるの？」

それは私のほうだ。別になにが起こるわけでもないってわかってるつもりなのに。

自分勝手な奇蹟を期待してる。顔が可愛いわけではなかったが、なんだかんだいって素直で愛敬があるタカミに対して、私はどこことなく宙に浮いている様で、あまり自分の話はしなかった。

そんな私の、自分だって気付いていなかったのかもしれない気持ちにタカミが気付くはずもない。ましてやあの人なんて。

第二話・17歳〜再会〜

ついに訪れてしまった、この日。

前の日の寝不足で少し荒れ気味の肌に、薄くファンデーションなんか、乗せてみる。買っただけでほとんど使ってない。

これ、いつ買ったんだっけ。ふと、中学の頃の会話を思い出す。

「新星は、化粧なんてしたことないだろ」

「うつさいなあ、そんなのあんたには関係ないでしょ」

「うわ、図星だろ。ま、でも、新星は、そんなのしなくて良いんだよな。そのままでも充分可愛いから」

「ば、ばっかじゃないの。冗談も良い加減にしなよ」

「なあに赤くなってるんの、ミサちゃん？冗談なんだろう？でも、化粧はしろよ？いつか」

よくあんな歯の浮くような台詞冗談でも言えるよ。あの人の気取った顔を思い出してちよつと笑った。

でも、その日の放課後、私はこれを買った。それは紛れもない事実。私も馬鹿だ。

タカミと学校帰りにそこへ行くと、駐車場には2、3人がすでに来ていた。皆、新しい生活があるようで、10人も集まらなかったらしい。

ふと、隣にいるタカミが堅くなるのがわかる。憧れのS君、シンジがいたからだ。

「二人とも、久しぶりだね。元気だった？」

自称フェミニストのシンジは、女の子なら誰にでも優しい。そんなシンジに憧れるタカミは、けっこう単純だ。

しばらくして人数が集まったので店に入る。食事もあり、皆は思い出話に花を咲かせている。

でも、私は気が気じゃなかった。

あの人に来ていないから。お祭り好き、目立ちたがり。絶対来そうなのに。

気になるけど、変に思われそうで、訊けない。

と、あの人と仲の良かった男子が幹事であるシンジに話しかけた。

「そういや、ヒロは？あいつが一番来そうたる」

「ああ。ちよつと遅れそうって言ってたよ。あいつ、学校遠いし。

あ、メール来てる。『どこ？』だって。お前見て」

「ヒロ！こつち、こつち。おせえよ、お前」

「わりい、わりい。…おお、思ったより少ない。」

…ついに来てしまった、あの人。私が一番恐れてて、一番待ってた人。

第二話・17歳〜再会〜（後書き）

長い間更新せず申し訳ございませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1401b/>

初恋

2010年10月14日01時40分発行